

東北医科薬科大学 若林病院 連携だより

平成31年 病院長年頭ご挨拶



東北医科薬科大学 若林病院 病院長 阿部 達也

新年おめでとうございます。

昨年中は皆さまから多大なご支援を賜り、心から御礼申し上げます。4月に病院長に着任以来、細部に気を配りながらも全体を見渡す視点を忘れないように心がけて参りました。昨年末に平成30年の世相を反映する漢字として「災」が発表されて少し残念な気がしましたが、気を取り直して新年を迎えております。

さて、今年の4月には今上天皇が退位され、平成の年号が終了し、まだ公表されていない新しい年号に切り替わります。その時、若林病院は誕生してから3年余りを経過することになります。この時期にあたり、当院と東北医科薬科大学病院（本院）との間での機能分担を目的として、病床の再編成と診療体制の一部の変更が行われます。当院において4月に予定されている主要な変更事項は以下の通りです。

- ・現在の当院 199 床の病床のうち 88 床が東北医科薬科大学病院（本院）に移動
- ・回復期リハビリ病棟（20 床）を 5 階に開設、現在のリハビリ室（1 階）は 5 階に移動
- ・地域包括ケア病床数を 12 床に変更（これまでは 26 床）
- ・血液内科の入院機能を本院に移動（外来は残留）
- ・精神科外来を開設

本院との機能分担は診療に加えて、教育（主に医学生の実習）や地域医療も視野に入れています。たとえば高度急性期医療（本院）と回復期医療（当院）における実践と教育の分担があります（急性期は今まで通り）。また、国と県が主導する地域医療構想に基づき、両院の立地条件に対応した地域医療の機能も求められています。

新たに分担する機能が加わり、本院との連携が強化されます。病床が再編されても従来の各診療科・部署・センターの特色は残したままの体制を維持する予定です。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



病院理念

人権と生命の尊厳を守り、心のこもった
温かい良質な医療の提供に努めます。

～目次～

- 平成 31 年 病院長年頭ご挨拶 ……………P.1
- 回復期リハビリ病棟が開設されます・新任医師紹介 …P.2
- 診療科紹介 — 歯科・歯科口腔外科 — ……………P.3
- 平成 30 年度 東北医科薬科大学 若林病院 連携の会・市民公開講座・Topics …P.4

回復期リハビリ病棟が開設されます

看護部長 鈴木 郁子



2019年4月に若林病院の5階病棟が回復期リハビリ病棟になります。20床で開設となります。

それと同時に、今まで1階に位置していた、理学療法室・作業療法室・言語聴覚療法室も5階に移設します。

東北医科薬科大学は、一般急性期と回復期の分野において、医学教育と地域医療の提供を担っていきますが、その回復期機能を充実させていくための回復期リハビリ病棟の開設となります。

2016年に立ち上げた地域包括ケア病棟は地域包括ケアシステムでの役割を十分に発揮できるようになりました。その病床も稼働させながら、回復期リハビリ病棟は、身体機能を確実に向上させ、日常生活復帰をめざす病棟になります。

昨年の夏ごろより、ワーキンググループを立ち上げ病棟開設の準備を進めてきました。担当するスタッフは病棟やリハビリ施設の改装の考案や、独自の学習会を実施してきました。さらに市内の回復期リハビリ病棟を有する病院の見学、そして全国有数のリハビリ病院にて実践的な研修を受講しています。意欲の満ち溢れた活動をおこない4月の開設に向け準備をしています。

5階病棟・リハビリ施設は、蔵王連峰や太白山、泉ヶ岳などが見渡せ、また太平洋の朝日もみえるロケーションのいいところです。回復期の患者さんがその光景を見ながら自由感を感じ、リハビリをして身体機能を回復させていく絶好の場所ではないかと思えます。開設にあたり、病院一丸となって取り組んでおります。

回復期リハビリ病棟開設の際は、対象の患者さんがおりましたらご紹介いただきますようお願いいたします。

回復期リハビリ病棟開設に向けた研修会 (H31.1.10)



講師：国際医療福祉大学大学院 教授
只浦 寛子 先生

世界の看護

～夢を叶える勇気を～

リハビリを受ける患者さんと看護師ならびに多職種の信頼構築の重要性、リハビリ期患者さんが希望をもって治療に臨むための医療者の関わり方のエッセンスを学びました。



回復期リハビリ病棟
立ち上げメンバー

新任医師挨拶

内科（糖尿病内科）^{ヒライ}平井 ^{サトシ}敏 医師（平成30年10月1日付）



10月に東北労災病院より赴任いたしました。佐藤譲先生と大和一美先生が築かれた糖尿病内科を少しでも発展させることができますよう努力する所存です。またそのことを通して、地域医療に貢献できればと思います。治療に難渋する患者さんがおられましたら、お気軽にご紹介ください。宜しくお願い申し上げます。

診療科紹介 ー 歯科・歯科口腔外科 ー



歯科科長 毛取 達郎

歯科口腔外科科長 森川 秀広

当院歯科・歯科口腔外科は若林区の2次診療機関として毛取、森川（日本口腔外科学会 指導医）の2名の歯科医師と歯科技工士1名、歯科衛生士3名、歯科用ユニット4台で診療しております。

●診療内容

当科では一般開業医で対応の難しい有病者の歯科診療や、周術期、入院患者の治療・口腔機能管理を行っています。具体的には以下の内容です。

1. 一般歯科診療 2. 炎症、外傷、嚢胞、良性腫瘍、粘膜疾患、難抜歯、埋伏歯抜歯などの口腔外科領域の治療 3. 有病者（高血圧、虚血性心疾患、脳卒中、慢性腎臓病、抗血栓療法、喘息、関節リウマチ、糖尿病、骨粗鬆症、がん化学療法等）、高齢者、認知症患者の歯科治療 4. 顎関節症や顎関節脱臼の治療 5. 睡眠時無呼吸症候群の口腔内装置の作製 6. 周術期、入院患者の口腔機能管理 7. 笑気吸入鎮静法を用いた歯科治療 8. 院内NSTへの参加 9. CTなどの画像診断、病理組織診断を行っています。

診療は単に外科的な処置のみならず、咬合回復（補綴治療）まで含めた総合治療を目指し、患者に寄り添う親切な診療を心がけています。

また当科にて対処不可能な疾患（悪性腫瘍等）については、東北大学病院や他の医療機関に紹介する方法で対応しています。

●医科歯科連携

当科の特色は、医科と緊密に連携をとりつつ、患者の口腔機能の維持・向上に努力していることです。具体的には・糖尿病患者の歯周病治療、観血的処置・抗血栓療法患者の観血的処置・がん化学療法患者の口腔ケア・睡眠時無呼吸症候群の口腔内装置の作成・BP剤投与患者の観血的処置・顎骨壊死患者の治療・オーラルフレイル（口腔機能のわずかな衰え）・誤嚥性肺炎の予防などに取り組んでおります。

●診療体制

- 1) 新患受付：月曜から金曜 8:30～11:00 午後：再来予約診療、手術
現在のところ初診時の予約はお受けできないことご理解いただくと助かります。
- 2) 医療連携室（電話：022-236-5899 FAX：022-236-5920）まで連絡いただくか、歯科外来（電話：022-236-5861 FAX：022-236-5485）にご連絡ください。
- 3) 患者さんには診療情報提供書をお渡しください。
- 4) 緊急を要する場合は、上記以外でもお電話（歯科外来 022-236-5861）でご連絡ください。
- 5) 再来診療は予約制ですが、急患などの対応によりお待たせすることもありますので、予めご了承お願いいたします。

近隣の先生方には、当科へのご紹介、ご協力をいただきありがとうございます。また当科からの逆紹介の患者様でも、お世話になっております。当科は若林区の2次医療機関として、連携を進めながら地域医療の貢献に努めますので、今後とも宜しくお願い致します。

平成30年度 東北医科薬科大学 若林病院 連携の会



平成30年11月14日(水)に、ホテルメトロポリタン仙台において、当院の連携の会を開催いたしました。当日は、ご多用中にも関わらず、院外の先生方および、医療・福祉関係機関より101名、院内より51名の合計152名の方々にご参加いただきました。

第一部の講演会では、阿部病院長より「病棟・病床再編に伴う診療体制」についての講演ののち、「診療科紹介」として、呼吸器内科、消化器内科、糖尿病内科、リウマチ科、腎臓内科、外科、耳鼻咽喉科、歯科より、診療内容等の説明を行いました。

第二部の情報交換会では、多職種の方々とは様々な情報交換を行うことができ、また、当院へのご意見を頂戴することができました。アンケートでもご意見を頂戴し、皆様からいただいたお言葉を踏まえ、今後の病院運営、医療連携の参考とさせていただきます。たくさんのご参加、誠にありがとうございました。

市民公開講座 平成30年12月21日(金)開催



第10回 『息切れと仲良くなろう』

公益財団法人結核予防会 複十字病院

呼吸ケアリハビリセンター部長 千住 秀明 先生

Topics



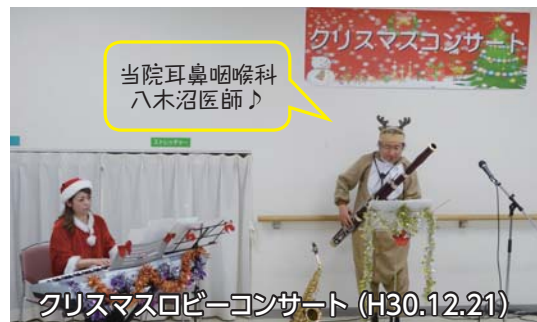
世界糖尿病デー (H30.11.14)



第6回SEICT感染対策セミナー (H30.11.29)



院長サンタ (H30.12.21)



クリスマスロビーコンサート (H30.12.21)

東北医科薬科大学 若林病院
地域医療連携・相談室

〒984-8560 仙台市若林区大和町2-29-1
TEL 022-236-5899 FAX 022-236-5920